



ちかくのひとをたいせつにしよう。

しゅはわたしのぼくしゃ、わたしはとぼしいことがない。
(しへん 23・1)



ひつじかいのもとでたうさんのひつじが、あんしんしてくさをたべています。ひつじかいはおくのいしにすわって、オオカミがおそってこないか、みまもっています。じぶんのひつじたちをあいして、やなっています。



イエスさまは、あるひ、みながつかれているのを見て、ふねにのせてやすみにいきました。でも、そこにつくと、たくさんのひとたちがまっていたので、あいするためおはなししました。



こイエスさまはいつもちかくにいてくださり、わたしたちのことをきにかけてくださいます。わたしたちが、みちこまようこと、ひとりぼつとかんじることをのぞまれせん。わたしたちをあいして、ちかくでやなってくださいます。



おやすみのひに、おかあさんはおりょうりをしなければなりません、ちょっとつかれていました。わたしにくだってといいました。わたしは「いいよ」といって、ハンバーグをてつだいました。



おかあさんがおしえてくれたことを、はじめました。それをゆうかたづくり、おいしいゆうしょくができました。



おかあさんはとてもよろこんで、もうつかれてないようでした。こんどいっしょにつくるときも、おかあさんは、ざいりょうをまぜるのが、にがてなので、つかれさせないようにしようとおもいました。(オランダのダミオン)